

第 11 章	消費・流通	名前:	日 付	No.01

[問題 1]

文中の()に適する語句を答えよ。

消費生活を営む経済活動の単位が(①)である。(①)の収入には、会社などで働いて得られる賃金などの(②)、農業や商店を営んで得られる(③)、利子・配当・地代・家賃などの(④)などがある。

[解答欄]

①家計	②勤労所得	③事業所得(個人業主所得)	④財産所
-----	-------	---------------	------

[解説]

[家計]
家計の収入＝所得

家庭の生活を維持する経済活動の単位を**家計**という。家計の収入を**所得**という。所得には、会社などで働いて得られる賃金などの**勤労所得**、農業や商店を営んで得る**事業所得(個人業主所得)**、利子・配当・地代・家賃などの**財産所得**などがある。

[問題 2]

次の文の①、②に適語を入れよ。

一般に、収入から、食料品、被服、娯楽などの(①)支出と税金・社会保険料などの義務的な支出を差し引いた残額を(②)という。(②)は将来の支出に備えるためのものである。

[解答欄]

①消費	②貯蓄
-----	-----

[解説]

[家計の支出]
消費支出：食料費、被服費、住居費など
義務的な支出：税金、社会保険料など
貯蓄：銀行預金、生命保険料など

家計においては、収入(**所得**)をもとに、さまざまな支出を行って生活を維持していく。支出のうち、食料費、被服費、住居費、水道・光熱費、交通・通信費、教育費、娯楽費などを**消費支出**という。収入(所得)から消費支出と、税金や社会保険料などの義務的な支出を差し引いた残額が**貯蓄**で、家計の**黒字分**である。貯蓄には、銀行預金のほかに、個人で契約している生命保険料や損害保険料などが含まれる。

[問題 3]

消費支出にあたるものを次の[]の中から 2 つ選べ。

[税金 被服費 年金保険料 電気料金]

[解答欄]

被服費、電気料金

[解説]

被服費や電気料金は消費支出である。税金や年金保険料などの義務的な支出は消費支出ではない。

[問題 4]

ある家計の月当たり支出を表した下のグラフを見て、後の各問いに答えよ。

[月額]						
実支出 41万円						
X 33万円					義務的支出 8万円	
その他	教育費	教養 娯楽費	交通 通信費	被服・ 履き物	住居費	食料費
					Z	社会 保険料
						黒字 11万円
						Y など

(1) X、Yにあてはまる語句を、それぞれ書け。

(2) Zに含まれるものを次から選べ。

〔 国債 税金 株式 銀行預金 〕

[解答欄]

(1)X 消費支出	Y 貯蓄	(2) 税金
-----------	------	--------

[解説]

この家計の収入は52万円(月額)である。52万円のうちの33万円が消費支出(X)(食料費、住居費、被服費、教育費など)にあてられている。また、税金(Z)や社会保険料をあわせた8万円が支出されている。52万円の収入から、消費支出33万円と税金などの8万円をあわせた41万円を引いた残りの11万円は黒字分になる。この11万円は貯蓄となり、将来の支出に備える資金になる。国債、株式、銀行預金は貯蓄である。

[問題 5]

右の表は、ある月のAさんの家計について表したものである。

次の各問いに答えよ。

(1) Aさんのある月の消費支出は、全部でいくらになるか。

(2) Aさんのある月の貯蓄は、全部でいくらになるか。

(3) Aさんの家のこの月の家計は、いくら黒字、またはいくら赤字になるか。

収入	277,000 円
食料費	65,000 円
水道・光熱費	32,000 円
被服費	8,000 円
交通通信費	44,000 円
住居費	60,000 円
税金	29,000 円
社会保険料	16,000 円
生命保険料	8,000 円
銀行預金	15,000 円

[解答欄]

(1) 209,000 円	(2) 23,000 円	(3) 23,000 円の黒字
---------------	--------------	-----------------

[解説]

(1) 消費支出は、食料費(65,000 円)、水道・光熱費(32,000 円)、被服費(8,000 円)、交通通信費(44,000 円)、住居費(60,000 円)で、合計は209,000 円である。

(2) 貯蓄は、生命保険料(8,000 円)と銀行預金(15,000 円)で、合計23,000 円である。自分の意志で加入する生命保険は貯蓄の一種である。これに対し、社会保険料(医療保険・年金保険など)は税金と同じ義務的な支出で、貯蓄ではない。

(3) 収入から支出(消費支出と税金・社会保険料などの義務的な支出)を差し引いた金額で判断する。(収入)－(消費支出)－(税金・社会保険料)＝277,000－209,000－(29,000＋16,000)＝23,000(円) なので黒字である。

[問題 6]

最近では、現金の持ち合わせがなくてもあるカードをもっていれば商品を買うことができる。

収入を考え無計画にならないように注意して使用する必要のあるこのカードは何か。

[解答欄]

クレジットカード

[解説]

クレジットカードはデパートや専門店と信販会社が提携してつくった代金後払い制のカードである。クレジットカードがあれば現金がなくともサイン一つで買い物ができるので便利である。例えば、12万円のパソコンを買いたいが、給料日まで半月近くもあるため手持ちの現金がない場合でも、クレジットカードを電気店に提示してパソコンを購入することができる。電気店は、クレジット会社に代金を請求する。

クレジットカード会社は加盟店への支払いを肩代わりし、後でカード利用者へ代金を請求する仕組みになっている。また、クレジットで分割払いを利用すれば、先にほしい物を手に入れて、後から毎月支払いを行うこともできる。

このようにクレジットカードは、現金がなくとも先にほしい物を手に入れることができる点で非常に便利であるが、危険性もある。「毎月の支払いが2万円なら大丈夫だろう」「生活費を少し切りつめれば、毎月これくらいなら返済できるだろう」などとたかをくくって、クレジットカードを使って次々にほしい物を買っていったらどうなるだろうか。クレジットも一種の借金である。返済可能な範囲を超えてしまい、どうにもならなくなってしまうこともある。最悪の場合は、返済に困ってサラ金などから金を借りることを繰り返し、しまいには、どうしようもなくなって自己破産を裁判所に申請するということがある。

クレジットカードを利用するにあたっては、収入と支出の予算をたて、返済可能な範囲を超えないように注意することが大切である。

[クレジットカード]
一種の借金
↓
返済不能となって
自己破産 することも

[問題 7]

クレジットカードの利用が増えるにつれて、裁判所への申し立てが増加しているできごとを何と
いうか。

[解答欄]

自己破産

[問題 8]

手元に現金がなくともクレジットカードで商品を購入することができる。その際に注意しなければならないことを「予算」と「収入」の2語を使って簡単に説明せよ。

[解答欄]

収入と支出の予算をたて、返済可能な範囲を超えないように注意する。

[問題 9]

預貯金、生命保険や損害保険の保険料などをまとめて何と
いうか。

[解答欄]

貯蓄